永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会　会報№257　2022 年 9 月 18 日発行

巻頭説教　「考えを変えられる神」　横山厚志

どうか、あなたの大きな慈しみのゆえに、また、エジプトからここに至るまで、この民を赦してこられたように、この民を赦してください。（民数記 14：19）

祈祷会では、ずっと旧約聖書を読んでいます。創世記から始まって、今は、民数記までやってきました。エジプトに住んでいたイスラエルの人々は長い間、奴隷の状態でした。それを神はモーセを送り、出エジプト、奴隷からの解放を成し遂げてくださいました。神はイスラエルの人々を導き、アブラハムに対して示された約束の地への導こうとします。エジプトを出たイスラエルの人々は、シナイの荒れ野にやってきました。

このシナイの荒れ野で、神はイスラエルと契約を結ばれたのです。神はイスラエルの人々の神となり、イスラエルの人々は神の民とされたのです。イスラエルの人々の目的地である約束の地の近くまでやってきました。そこで、イスラエルの人々は、各部族から代表者を出し、約束の地を偵察に行くことにしました。それは、神の導きの中で、約束の地に入るための必要な準備と考えられていました。帰って来て、報告することは、約束の地は良い地であるが、先住民は巨人で強い、自分たちが入って戦えば負けてしまう、だから、行くことはやめようとしました。イスラエルの人々が神に求められていることは、いかにして神の言葉に従っていくかでした。その意味では、神の言葉に反する決断をしたのです。

このイスラエルの人々の判断は、神を怒らせました。神はいいました。「この民はいつまでわたしを侮るのか。彼らの間で行ったすべてのしるしを無視し、いつまでわたしを信じないのか。わたしは、疫病で彼らを撃ち、彼らを捨てよう」（民数記 14：12）と。エジプトにいたイスラエルの人々が、ここまでいかに歩んできたのか、それは神の大きな導きによるのです。エジプトを出る時には、10 の災いがあり、そのおかげで、エジプトを出ることができたのです。葦の海では、目の前には海が広がり、後方からはエジプト軍が迫って来た時に、神は、目の前の海を２つに分け、乾いた地を表し、そこをイスラエルの人々は渡ることができ、後から追いかけてきたエジプト軍は、海の中にもまれて死んでしまったのです。神の大きなしるしによって、ここまで導いてくださったのです。それを、イスラエルの人々は忘れ、神の力を信じることをせず、自分たちの力しか見ていないのです。神を信じることができない、このようなイスラエルの人々の罪に対して、神は激しく怒り、人々をすべて滅ぼしてしまうという思いの中にありました。

しかし、この時に、モーセが神にイスラエルの人々の罪の赦しを願うのです。モーセは「どうか。あなたの大きな慈しみのゆえに、また、エジプトからここに至るまで、この民を赦してこられたように、この民を赦してください。」と、神に願います。モーセの願いを、神はどのように聞いてくださったのでしょう。神は、モーセの言葉を聞いて、イスラエルの人々を赦されるのです。「主はいわれた。あなたの言葉ゆえに、わたしは赦そう。」と答えてくださいました。イスラエルの人々を滅ぼすことをやめるのです。しかし、神はイスラエルの人々に、「あなた方は、約束の地に入ることを拒否したがゆえに、約束の地に入ることはできない。荒れ野で 40 年間さまよい、荒れ野で死に絶える」と告げました。神の言葉通りに、イスラエルの人々は、荒れ野で 40 年間さまようことになります。しかし、その子どもたちが新しく、神の民として約束の地に入っていくことになります。

神はこのようにして、考えを直されることもあります。モーセのとりなしによって、それが実現しています。神はどのようなお方であるか、旧約聖書は、私たちに伝えています。

転会者の紹介

Ｉ・M姉

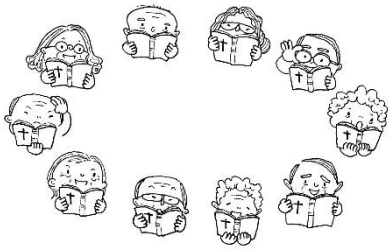
私は 7 月 17 日、主日礼拝で入会式をしていただきました。1966 年 12 月 04 日に日本バプテスト連盟瑞穂キリスト教会でバプテスマを受けました。

誕生日は 1938 年３月 12 日。結婚して緑区鳴海団地に住んでいた時に、「友の会（婦人の友愛読者）」に入会し、聖書にふれる機会が出来ました。友の会員を中心に、毎週の家庭集会が始まり、２年後にバプテスマを受ける人が出始めると、幼児・小学生のために「土曜学校」が始まりました。瑞穂教会の牧師夫妻・教会から一人の男子高校生を派遣してくださり、家庭集会は持ち回り会場、日曜は教会へ、とても楽しかった思い出です。私は家の教会で信仰が育てられました。51 年前に菱野団地に引越して来ました。私は家庭集会で信仰が育てられたので、家庭集会は続けようと思いました。

81 歳になり、車の運転は辞めました。瀬戸の自宅から乗継ぎ片道２時間かけて瑞穂教会へは苦痛も感じるようになりました。コロナウイルスの出現と流行で、教会環境も変則的となり、ラインでの礼拝・祈祷会などの集会に違和感を感じながらも受け入れていました。かねてより、一度出席を思いながら、車窓から眺めていた永泉教会に、出来たら自分の足で行ける教会へ、主の日は教会へを熱望しながら、コロナ自粛に励んでいました。体調も昨年の春ごろより変調をきたし、捻挫、骨折等家庭療養が多くなり、瑞穂教会へ行けなくなりました。始めての永泉教会へ出席は今年の１月２日、元旦礼拝に、改築完成まじかな時期でした。聖書も一緒、讃美歌も昔何十年使った日本基督教団発行のものでしたから違和感もなく、うれしさ一杯でした。

現在の家族は、次男と二人生活。長男は駒ヶ根市で勤務、週末に瀬戸に帰り自分の教会へ行きます。夫は定年後瑞穂教会へ毎週行くようになり平成 14 年にバプテスマを、平成 24 年に召天しました。いろいろとお世話になるばかりと思いますが、よろしくお願いいたします。

マタイ６章３３節（何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。）



献堂式の報告

7 月 24 日　献堂式を終えて　K・R長老

7 月 24 日　15 時からの献堂式、神様の御守りの中、無事に終えることが出来ました。

主の御業を共に感謝し、共に喜ぶことが出来ました事、本当に感謝です。この献堂式には教区の他教会の方々、以前より永泉教会に関わりの深かった方々、遠路より来てくださった方、いつもは様々の事情で中々、礼拝に出られなかった方も、ここに集まってくださいました。主がきっと集めてくださったに違いありません。そして金城学院高校のハンドベルの美しい調べがこの献堂式を盛り立ててくださいました。本当にありがとうございます。100 名近くの方がここに集まって共に喜ぶことが出来ました。主は私たちに喜びを与えて下さいます。その喜びを実感するまで、事がなされるその過程において、私たちの信仰の弱さが、不安に思わせたり、あるいは焦りとか苛立ちとかを覚えてしまうかもしれません。しかし、それが実現した時には今までの思いが本当に素晴らしい喜びに変わることを実感させてくださったのです。私たちはこれから主を信じ、従っていく事の大切さ、それが大きな喜びつながるといことを証していきたいと思います。主は私たちの心を再び教会に、神様とお会いする場所を求める心を育ててくださったのです。器は新しく立派にできました。私たちはこれから、この器いっぱいに果実を集めることが出来るように祈りながら主の業を行なっていきたいと思います。主が導いてくださることを信じて。また、祈り求めることが叶う事を実感できると確信して。

画：金斗紘

長老の証

今を生き抜くこと　　Ｍ・Ｓ長老

世の中が閉ざされた世界となりつつあります。

世界各国の紛争、コロナ感染等の新しい病のまん延。一方、私達日々の生活においても、人間関係の中で、相手に嫌なことをされた、言われた。また、私達個人においても、自分が相手にしてしまった行為に対する罪の意識。これらの嫌な過去の記憶を忘れることが出来ず、前に進めない状況や、今に集中出来ないことがあると思います。また、将来においても、自分の老いによる体の衰えや、今後の生活への不安、家族の将来等をいろいろと思い悩み、気分が落ち込み、何も行動出来ないこともあります。

このように私達は、頭に湧く妄想に囚われ過ぎ、これに反応して日々苦しみを感じてしまいます。自分の世界に閉ざされた生活となってしまいがちです。

「明日のことを思い煩うなかれ。明日のことは明日思い煩え」マタイによる福音書第６章34節　この言葉は、今日のこの瞬間が一番大切なことを教えてくれる言葉と思います。

いつまでも過去に生きてはいけない。

自らの悪いところは反省をして改めることは当然必要でありますが、世の中は自分の思いどおりにならないことが沢山あります。

ある１点にこだわること。偏った見方をしないこと。そして、今やっていることが、いずれ人生のどこかで繋がって将来に実を結ぶ。

今日１日、今、ここをしっかり生きよ。

この様な思いを抱きつつ、今を生き抜いてゆきたいと思います。

教会増改築完了市民見学会

『せと歴！せとまちの瀬戸永泉教会礼拝堂を訪ねる』　　Ｎ・Ａ長老

2022 年 6 月 26 日（日）、瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会（事務局：瀬戸市 地域振興部 文化課）主催の事業『せと歴！せとまちの瀬戸永泉教会礼拝堂を訪ねる』が行われました。

瀬戸永泉教会礼拝堂は、明治３３年に建造され、幾度かの改修が行われたものの、建造当時から基本構造が変わらず、教会堂として使用されている県内でもほかに例がない建造物として紹介されました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため定員２０名に限られましたが、歴史や建築に興味のある市民が参加されました。

あいにく、異常なまでに気温が上がり、歴史的建造物が活用されている松千代館や旧桜町通りを先に見学して来られたため、参加者のみなさまは暑さに苦しめられながらも、建築士の説明に熱心に聞き入っていました。

建築士の説明では、洋風建築が日本に入ってきた歴史や日本の建築との融合などが瀬戸永泉教会の建築様式とグローバルに重ね合わせて語られました。それは信仰の伝えられてきた道であり歴史であるとも感じられ、個人的には非常に感慨深く聴かせていただきました。

信仰とは無縁であるはずの建築士がいみじくも信仰の歴史を証ししてくださったようで、まるで東方の占星術の学者がキリストの聖誕を告げたときのような、神の御計画の不思議さを覚えました。

改築に至るまでの長い議論の中で、神がこの建物を通して様々な御業を行われることを私たちは期待していましたが、期待したことをはるかに超える恵みが与えられました。この実りがこれで終わるものではなく、さらに広がり大きくなっていくことを、信じ、さらに期待し、祈り求めていきたいという思いを新たにされました。

夏の集い報告

コロナ禍も３年目となりましたが、第７波の影響が大きかった夏休みでした。行動制限がないとは言え、宿泊も飲食も引き続き自粛せざるを得ず、半日ずつのささやかな夏の集いとなりました。それでも、学童向け、ＣＳ生徒向け、マリア幼稚園向けと３回、それぞれでヨセフ物語のペープサートを上演し、たくさんの子どもたちとふれあうことができました。

８月２０日（土）の午後は教会最寄りのひまわり学童から１２名の小学生と２名の指導員が訪問してくれ、小椋牧師のメッセージの後ペープサートと横山牧師の手品の伝授、W姉のゲームを楽しみました。

翌８月２１日（日）はＣＳ生徒の小学生２人

が留学の引率でオーストラリアにいる寺田兄とのリモート通話や光る泥団子づくりに挑戦しました。

８月２３日（火）には、ＣＳ教師７人が瀬戸市内のマリア幼稚園を訪問し、２７人の園児たちにペープサートを披露しました。

教師一人一人が、与えられたタラントを惜しみなく生かして子どもたちのために仕えています。どうぞ祈りの内に覚え、お支えください。

（Ｎ・Ａ）

聖書豆知識

聖書を深堀する　　小椋　実央牧師

７月に献堂式を迎え、新会堂の歩みがスタートした。とは言っても礼拝堂の外見が変わっただけで建築中も礼拝は休むことはなかったし、教会としての本質は何も変わっていないはずだが、やはり心機一転「教会」という言葉に着目してみたい。

新約聖書の原典（ギリシャ語）をひも解いてみると、福音書に限って言えば「教会」という言葉は４つの福音書中ではたったの２回しか出てこない。すぐに思いついた方はなかなかの聖書通と言えるかもしれないが、一か所は「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」（マタイ１６：１８）である。もう一か所はなかなかの難問で、私もすぐに思い浮かべることはできなかった。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら・・・それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。」（マタイ１８：１７）である。さきほどの「岩の上に教会を建てる」には続きがあって、イエスさまが授ける鍵によって教会は罪の赦しの権能を持つのだ、という話へと展開していく。となるとこのたった２回しか出てこない「教会」という単語は、どちらも「教会とは罪の赦しの権能を持つところ」を説明しているのだということが分かる。「教会って何をするんですか？」と聞かれた時に「教会は礼拝をするところですよ」と安易に答えてしまうことが多いのだが、罪の赦しを宣言するために礼拝をささげるのだ、ということを改めて学ばせていただいた。

福音書の中で「教会」という言葉が少ないことについて、福音書はイエスさまの生涯とその教えに焦点をあてているからだ、と説明することができる。と同時に意図的に使わないことによって、マタイにいたってはここぞという時に「教会」という言葉を用いて「教会とは何か？」を強調したかったに違いない。祈りつつ、委ねつつ、罪の赦しの権能を持つ教会の枝として瀬戸永泉教会の新しい１ページをご一緒に歩んでいきたいと思います。

≪今後の予定≫

2022 年 10 月 16 日（日）
- **教会創立記念礼拝　10:30～**
- **記念講演会（第一部）　13:00～14:30**
  - **「幸せな老後を送るには」講師：鈴木卓也氏**
- **記念講演会（第二部）　14:30～15:00**
  - **落語：三葉亭冷奴**

2022 年 11 月 6 日（日）
- **永眠者記念礼拝　　10:30～**
- **墓前礼拝（十字ヶ丘復活苑）14:45～**

2022 年 12 月 24 日（土）
- **聖夜礼拝　※時間未定**

2022 年 12 月 25 日（日）
- **クリスマス礼拝　　10:30～**
- **金城学院ハンドベルコンサート　14:00～**

＝編集後記＝

教会の会堂等建築も献堂式を無事に終えることが出来、喜びを共に分かつことが出来ました。新型コロナウィルスの感染はまだ、終息には至っていませんが、主の守りの中、教会活動が出来ます事、本当に感謝です。今尚、戦闘が続いているウクライナの人々に平和が再び訪れますように、神様の慰めと励ましを祈っていきたいです。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございました。

アーメン　　Ｋ・Ｒ長老

日本キリスト教団　瀬戸永泉教会

牧師　横山　厚志・小椋　実央

〒489-0822　瀬戸市杉塚町５

電話、FAX：0561－82－2314

ホームページ：瀬戸永泉教会で検索または⇒